

平成 22 年 5 月 24 日現在

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2007～2009

課題番号：19730177

研究課題名（和文） 垂直型企業結合と市場閉鎖

研究課題名（英文） Vertical integration and market foreclosure

研究代表者

鈴木 彩子（SUZUKI Ayako）

早稲田大学・国際教養学院・講師

研究者番号：20327696

研究成果の概要（和文）：本研究は、垂直結合の競争促進・競争阻害のどちらの効果が高いかを実証研究により明らかにしようとしたものである。特に、近年盛んに垂直結合が見られた米国ケーブルテレビ産業のデータを用いてこの問題に取り組んだ。その結果、垂直結合により、卸売価格も最終価格も下がったことを示唆する結果がみられた。つまり、垂直企業間での効率性改善があったと考えられる。しかし、この効果は消費者余剰には反映されていないことも分かった。これは、ケーブルテレビ会社が垂直結合により自社チャンネルとなったチャンネルを優先してパッケージに組み込むようになるためである。

研究成果の概要（英文）：This project analyzes effects of vertical integrations on market outcomes. Specifically, I empirically examine the relative size of the efficiency and foreclosure effects of vertical integrations in the US cable television industry for the purpose of understanding the welfare implication of vertical integration. The analysis finds that market prices were dropped due to the merger in the industry, suggesting that there might have been an improvement in efficiency. However, the preference for own channels by the integrated cable television company persisted despite a lower quality of channel bundles; efficiency gains from the merger were not passed on to consumers.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,200,000	0	1,200,000
2008年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	3,000,000	540,000	3,540,000

研究分野：経済学

科研費の分科・細目：応用経済学

キーワード：産業組織論、反トラスト、独占企業

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初、わが国でも企業の M&A が盛んになっていたが、企業結合、特に垂直型企業結合の市場への影響についての理論研究は一貫した結論を出していなかった。特に、垂直結合が外部性を取り除き効率性を向上させるとする競争促進論は、垂直結合による消費者価格の引き下げ、生産量の上昇、そして消費者余剰の上昇を予測するのに対し、競争阻害論は消費者価格の引き上げ、生産量の下落、そして消費者余剰の下落を予測している。これらの相反する理論は共存可能であるため、二つのどちらの影響が大きいかを検証するには実証分析が必要となってくる。本研究はこのような背景のもと開始された。

2. 研究の目的

本研究では、米国ケーブルテレビ産業のデータを用い、上記の問題に取り組んだ。米国ケーブル産業では、1990年代後半からプログラム会社(川上企業)とケーブルテレビサービス供給者(川下企業)との間の垂直結合が盛んであり、反トラスト機関の懸念となっていた。特に、ケーブルテレビサービス供給者は地域独占を許されているため、もし結合した供給者により市場閉鎖が行われれば、競争者のプログラム会社は市場を失うことになり、その影響は深刻である。

本研究は、このケーブルテレビ産業の垂直結合に注目し、垂直結合の市場へのネットの影響を推計することを目的とした。また、実際に垂直結合によって効率性が改善されるのか、そして、実際に企業は市場閉鎖の行動を取るのか、という疑問も実証分析にて検証することを目的とした。このような実証研究は、現在までの反トラスト政策の妥当性、そして

今後のあり方を検討する上で非常に重要になると考えられた。

3. 研究の方法

(1) ケーブルテレビ産業の独立した地域独占市場のパネルデータを収集した。パネルデータを用いることにより、企業のダイナミクスな反応を見ることができる。また、Aghion and Bolton (1987) は、垂直結合が現存競合企業への市場閉鎖だけでなく、潜在的参入者を閉め出すことから、競争阻害的な役割があるとしているが、垂直結合の潜在的参入者への影響を分析した実証研究はまだ存在しない。パネルデータにより、プログラム会社の新規参入者と垂直結合の関係を分析し、Aghion and Boltonの仮説の検証も可能であると考えられる。

(2) 近年急速に発展してきたノンパラメトリック手法、特に Abadie and Imbens (2001) の推計方法を用い、関数形の仮定に頼りすぎない分析を目指した。

4. 研究成果

(1) ケーブルテレビ産業の分析

データ収集：

1996年度と2001年度の地域レベルのデータを Warren Publishing の「*Television and Cable Factbook*」より収集し、電子化した。

分析結果：

ケーブルテレビ産業の代表的で最も規模の大きいものの一つであった Time Warner(川下企業)と Turner Broadcasting(川上企業)の垂直結合に焦点をあて、実証研究を行った。その結果、この垂直結合の影響について、現在まで下記のような興味深い結果が出ている。

垂直結合により、卸売価格も最終価

格も下がったことを示唆する結果がみられた。つまり、垂直企業間での効率性改善があったと考えられる。しかし、垂直結合により、Time Warner は Turner Broadcasting のチャンネルをその質に関係なく優先してパッケージに組み込むようになった。このことにより、消費者余剰は価格が下がったにも関わらず上昇していなかった。

垂直結合によりもっとも利を得たのは Turner Broadcasting のチャンネルのひとつであるが、そのチャンネルは Turner Broadcasting が Time Warner と結合する前は Time Warner によって市場閉鎖されていた可能性が高い。

この2企業の垂直結合により市場閉鎖されたチャンネルはどの川下企業とも結合していない企業の商品ばかりであった。

1990年代からの米国ケーブル産業では、FTC（米連邦取引委員会）は様々な条件をつけつつも、プログラム会社と供給会社との垂直型結合を容認してきた。本研究からの結果は、そのようなこれまでの反トラスト政策の妥当性を再考察すべきであることを示唆している。

(2) その他の産業の分析

米国ケーブルテレビ産業の分析後、日本のその他の産業に分析を広げている。

特に、生産部門と小売部門の垂直結合型企業と分離型企業が混在する日本のガス産業や電力産業に注目している。

ガス産業においては、垂直結合を含めた構造が異なることにより規制の効果が違って来るかについて注目して研究を進めている。

電力産業では、小売市場の電力買入札に注目し、垂直結合している企業と分離してい

る企業で生産費用が異なることにより、応札行動がどのように変わってくるかに注目して研究を進めている。

5. 主な発表論文等（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計1件)

Ayako Suzuki, "Market Foreclosure and Vertical Merger: A Case Study of the Vertical Merger between Turner Broadcasting and Time Warner", *International Journal of Industrial Organization*, July 2009; 27(4), 532-543. 査読有

〔学会発表〕(計4件)

1. 鈴木彩子, "Bundling Products with Decreasing Value", 日本経済学会、2007年6月2/3日、大阪学院大学
2. Ayako Suzuki, "Yardstick competition to elicit private information: an empirical analysis of the Japanese gas distribution industry", International Industrial Organization Conference, Marymount University, May 16-18, 2008.
3. Ayako Suzuki, "Yardstick competition to elicit private information: an empirical analysis of the Japanese gas distribution industry", European Association for Research in Industrial Economics, Toulouse School of Economics, September 4-6, 2008.
4. Ayako Suzuki, "An empirical analysis of entrant and incumbent bidding in electric power procurement

auctions ”, European Association for
Research in Industrial Economics,
University of Ljubljana, September
3-5, 2009.

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 彩子 (SUZUKI Ayako)

早稲田大学 国際教養学院・講師

研究者番号 : 20327696